

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-8	中学校	美術科	美術	第2・3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美術 802	美術 2・3		

1. 編修の基本方針

「うつくしい！を探しにいこう。」

身の回りの美しさに気づき、自分の手で美しいものをつくる楽しみや喜びを感じてほしい——そのような思いから、教科書の冒頭と最後に「うつくしい！」という文章を掲げました。

未来を切りひらいていく生徒たちの感性を育み、ものを創造する力を身につけられるように、次のことを基底において編修しました。

1 豊かな感性を育む

—— 美術の奥深さに気づく目を養い、豊かな感性を育む教科書です。

美術の奥深さに気づき、そのよさを感じ取ることができるように、手がかりとなる工夫を、紙面の随所に施しました。

2 「表現すること」の喜びを感じる

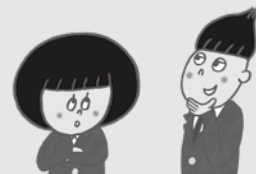
—— いろいろな表現のしかたを知り、表現することの喜びを感じることができる教科書です。

生徒たちが「もっと表現してみたい」と思えるように、作品の発想のしかたや表現技法などを具体的に示し、自分の表現に生かせるようにしました。また、掲載作品については、作者の表現の意図や工夫を考えさせる問いを示し、生徒が他者の表現についても理解が深められるようにしました。

3 多様な価値観と出会う

—— さまざまな作品と出会い、多様な価値観にふれることができる教科書です。

多様な作品に出会えるよう、さまざまな国や地域、時代の作品を選び、掲載しました。また、作品については、適宜作者の言葉を付し、作者の表現の意図や工夫がわかるように配慮しました。



1

豊かな感性を育む

—— 美術の奥深さに気づく目を養い、豊かな感性を育む教科書です。

美術の奥深さに気づく、鑑賞題材

作品が生まれた背景や作者について知ることで、作品の理解を深め、美術の奥深さを感じてほしいという願いから、一部の鑑賞題材に、「作品介绍」「作家紹介」「美術史ワード」というコーナーを設けました。



特別展示室

「ゲルニカ」の鑑賞図版を、両観音開き(4ページ)で大きく掲載しました。



作品介绍

「ゲルニカ」が描かれた時代背景や、ゲルニカの制作過程を紹介しました。

作家紹介

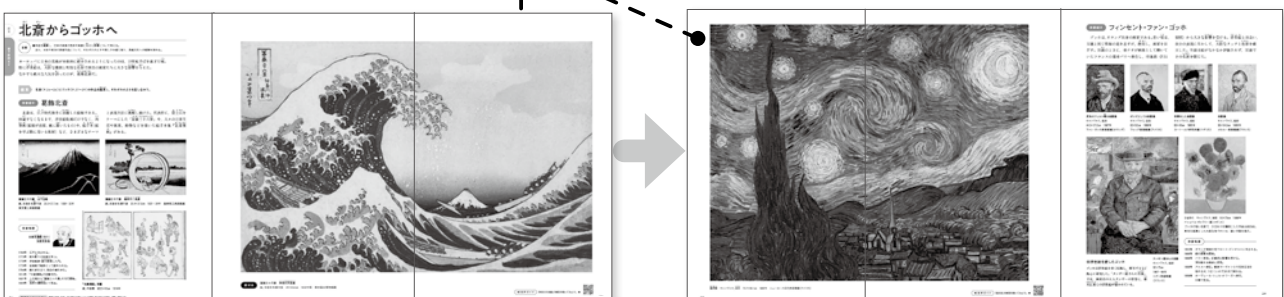
ピカソの生涯や、時代ごとの代表作を紹介しました。

P.48~55「ゲルニカ、明日への願い」

関連性の高い作品は一つの題材で扱い、比較して鑑賞することで、作品の理解を深める工夫をしました。

北斎とゴッホの代表作を、片観音開き(3ページ)の表裏で大きく掲載しました。

北斎、ゴッホそれぞれの作家紹介を設け、ゴッホが北斎から大きな影響を受けたことを感じ取れる紙面構成にしました。



P.24~31「北斎からゴッホへ」

「表現すること」の喜びを感じる

—— いろいろな表現のしかたを知り、表現することの喜びを感じることができる教科書です。

発想のしかたや表現技法などを、具体的に示しました

全ての表現中心の題材で、作品の発想のしかたや表現技法などを具体的に示し、生徒たちが自分の表現に生かせるようにしました。

人の動きを捉えた立体作品をつくる題材では、さまざまな方法で表現した生徒作品を示し、「躍動感をあわす工夫を話し合おう」という問いを投げかけました。

躍動感を捉える

目標 ●人の動きを捉え、躍動感が伝わるように材料や用具を工夫して作品にあらわす。
●さまざまな作品を鑑賞して、躍動感をあわすための表現の工夫を探る。

陸上のスタートダッシュ、バレーボールの攻撃の瞬間、音楽会の演奏での指揮者の動き……。体育の授業や部活動など、普段の生活の中で、人の動きに美しさを感じたことはないだろうか。人の動きをじっくりと観察し、生き生きとした躍動感を表現しよう。

鑑賞 動きを捉えた作品を鑑賞して、躍動感をあわす工夫を話し合おう。

生徒作品
金力探豆
針金、新聞紙、マスキングテープ
高さ25cm
作者の発想
ゴールに向かって、全力で自転車こぐ人をつくりました。前のめりになり、休全体を凝縮して描いている姿を表現しました。

生徒作品
夏の練習
針金、アルミワイヤ、毛糸棒 高さ12cm
作者の発想
生活の練習風景です。ほどよく緊張感が抜け、友達と練習を楽しんでいる雰囲気が出るように表現しました。

生徒作品
全力投球!
針金、粘土、アクリル
高さ17cm
作者の発想
大きく足を振り、全力でピッチングしている自分自身です。ユニフォームのしわで、躍動感をあわしました。

生徒作品
躍動するたの公式戦に
針金、粘土、紙、アクリル棒 高さ115cm
作者の発想
躍動するたの公式戦に、選手が躍る姿を想像してつくりました。揺れる髪や表情で、熱いよく礼を取った観客のスピード感を表現しました。

実境 動きを捉えたい動きを捉えて、作品にあらわそう。

① テニス部の先輩がボールを打とうとする瞬間をあらわしたいと思った。さまざまな角度からスケッチをし、構想を練る。

② 前目で意識をつくり、厚みをも着ける。

③ 土台に固定し、粘土を付けていく。

生徒作品
針金、紙、アクリル棒
高さ27cm

作家の発想・構想 「好きな動き」を突き詰める

大好きなバレーボールをテーマに、本気で突き詰めています。作品を作ると、彼は「好き、突き詰めることが何より大事だと思っています。例えば、躍動感をあわしたいのなら、「好きな動き」、きこころ突き詰める。「自分の人にとどまらないうえ、自分の好きな動きはこれなんだ」と思えたら、自然といい作品が出ていくのではないだろうか。

作品を鑑賞前に、アイデアスケッチを鑑賞する。

五: Takase Kenta Jersey 2014
四: Takase Kenta 2014
三: Takase Kenta Down jacket 2014
二: Takase Kenta Jersey 2014
一: Takase Kenta Jersey 2014

P.40～41「躍動感を捉える」

作品の発想・構想の手立てを、写真とともに詳しく示しました。

作家の発想・構想
作家の発想・構想のしかたを、コラムで紹介しています。

金属でつくる

金属は、熱を伝わりやすく、硬く、伸びる、曲げられる、折れる、溶かすことができる。また、光沢があり、美しい。金属を加工して、さまざまな作品を作ることができる。

金属の種類と特徴

- 鉄: 最も身近な金属。強度が高く、加工しやすい。錆びやすい。
- 銅: 美しい赤銅色。導電性が高い。酸化しやすい。
- アルミニウム: 軽くて、強度が高い。加工しやすい。酸化しやすい。
- ステンレス: 錆びにくい。強度が高い。加工しやすい。

金属の加工

- 鍛造: 金属を熱して、ハンマーで叩いて成形する。
- 鍛錬: 金属を熱して、ハンマーで叩いて、強度を高める。
- 鍛錬: 金属を熱して、ハンマーで叩いて、強度を高める。
- 鍛錬: 金属を熱して、ハンマーで叩いて、強度を高める。
- 鍛錬: 金属を熱して、ハンマーで叩いて、強度を高める。

各題材の下部に、関連する巻末資料のページを示しています。さまざまな技法について詳しく知ることによって、生徒たちの表現の幅が広がります。

金属の種類や特徴、加工のしかたを詳しく紹介しています。

P.82「金属でつくる」

3

多様な価値観と出会う

—— さまざまな作品と出会い、多様な価値観にふれることができる教科書です。

さまざまな国や地域，時代から掲載作品を選びました

生徒たちに美術文化の多様性を感じてほしいという思いから、さまざまな国や地域，時代から作品を選び、掲載しました。また、美術には多様性を認める力など、さまざまな力があることを巻末資料で示しました。



P.44~45「今の自分, これからの自分」

自分を描く題材では、多様な作家の自画像の作品を掲載しました。

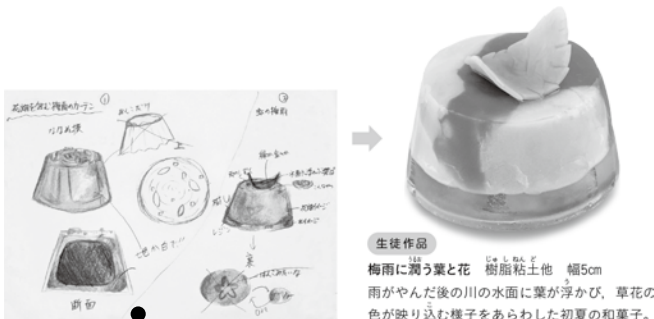


P.103「美術の力」

「美術の力」と題したページで、美術文化の多様性についてふれています。

生徒作品は、作者の表現の意図や工夫がわかるように掲載しました

多様な価値観にふれられるよう、各題材に、多くの生徒作品を掲載しています。アイデアスケッチや「作者の言葉」を付し、作者の表現の意図や工夫を感じ取れるようにしました。



生徒作品

梅雨に湧う葉と花 樹脂粘土 他 幅5cm
雨がやんだ後の川の水面に葉が浮かび、草花の色が映り込む様子をあらわした初夏の和菓子。

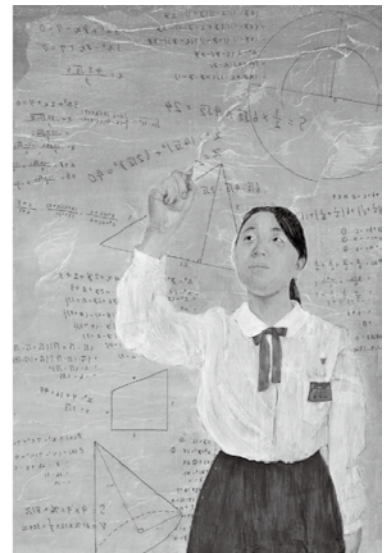
生徒作品

14歳の自分を見つめて
板, ポスターカラー, モデリングペースト他 50×34cm

作者の言葉

私は数学が好きなので、難しい問題に挑戦して解けたときの気持ちを表現しました。勉強すると自分の可能性が広がる気がするので、大空をイメージして背景を青にしました。

多くの生徒作品に、アイデアスケッチや、「作者の言葉」を付しました。



2. 対照表

[第2・3学年]

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
はじめに	作品とともに谷川俊太郎の文「うつくしい!」を掲載し、生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うよう配慮した。【第一号】	P.2
	伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、国宝「阿修羅像」を3ページにわたって大きく掲載した。【第五号】	P.2-4
絵や彫刻など	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示するとともに、初めの「鑑賞」に問いを設定した。【第一号】	P.6-55
	美術の学習が、豊かな情操と道徳心を培うことにつながっていることを意識できるように、ページ下に適宜「道徳科とのつながり」マークを示し、道徳の学習と関連する内容を示した。【第一号】	P.10-15 P.22-23 P.24-31 P.34-39 P.42-55
	主体的な学習活動を通して判断力や真理を求める態度を養うよう、生徒が自ら書き込んで学習できるトレーシングペーパーや質感の異なる紙を使用し、生徒が関心をもって学習に臨めるよう配慮した。【第一号】	P.10-15 P.36-39
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うよう「作品紹介」、「作家紹介」、美術史の用語を解説する「美術史ワード」を設けた。【第一号】	P.14-15 P.17 P.24 P.29-31 P.54-55
	お互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作家や生徒の作品を掲載した。作品には適宜「作者の言葉」を添えるとともに、作家の発想・構想をコラムとして示した。【第二号】	P.6-55
	自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うため、実際の中学生在が制作する様子や生徒どうしで意見を交換する様子などを掲載した。【第三号】	P.7-8 P.18 P.21 P.23 P.32 P.35 P.40 P.43 P.45-46
	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、我が国で大切にされてきた美術文化を積極的に掲載した。【第五号】	P.18-19 P.22-23 P.24-26 P.36-39
平和を希求する心が育つよう、平和や国際協力について考えるきっかけになるような作品を取り上げた。【第五号】	P.48-55	
デザインや工芸など	生徒自身が考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、各題材に目標を明示するとともに、初めの「鑑賞」に問いかけを設定した。【第一号】	P.56-75
	お互いの価値観を尊重しながら創造性を培うことができるよう、さまざまな発想のもとでつくられた作家や生徒の作品を掲載するとともに、適宜「作者の言葉」を添えた。【第二号】	P.56-75
	自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うため、実際の中学生在が制作する様子や生徒どうしで意見を交換する様子などを掲載した。【第三号】	P.57-58 P.61 P.63 P.65 P.69 P.71-73
	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、ポスターやピクトグラム、空間デザインなど公共の場におけるデザインの働きについて取り上げた。【第三号】	P.56-63 P.67 P.69 P.73-75
	自然に親しみ、大切にすることを養うため、環境の保全について伝えるデザインや、和菓子や着物などの自然を取り入れ発展してきた美術文化などを取り上げた。【第四号】	P.74-78 P.80-81
学習を支える資料	発想の広げ方や色の知識、技法や用具の使い方などを汎用性の高い内容にまとめることで、生徒自身が必要に応じて参照し、自主及び自立の精神をもって学習を進められるように配慮した。【第二号】	P.76-79 P.82-83 P.86-89
	自然に親しみ、大切にすることを養うため、自然物の加工方法や地球環境に関する課題提起を行った作品、自然物に由来する日本の伝統色などを取り上げ、自然を大切にすることを養うよう配慮した。【第四号】	P.84-85 P.88-89 P.103
	我が国の伝統と文化とともに他国を尊重する姿勢を養うため、時代ごとの文化交流の歴史がわかる資料や、日本及び諸外国の美術史年表などを掲載した。【第五号】	P.90-96
	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うため、日本の伝統工芸と世界文化遺産について学習する資料を設定した。【第五号】	P.97-101

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-8	中学校	美術科	美術	第2・3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	美術 802	美術 2・3		

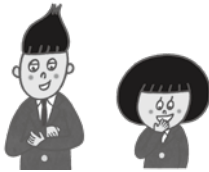
1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学習の流れを示し、主体的・対話的な学びへ

——「表現」と「鑑賞」を一体的に学習する流れを示しました。

「表現」と「鑑賞」を一体的に学べる構成に

「表現」と「鑑賞」の相互関連を意識し、一つの題材の中で、「表現」と「鑑賞」を一体的に学べるような構成にしました。「表現」と「鑑賞」をアイコンで示し、学びの流れがひと目でわかるため、生徒が主体的に学習することができます。また、題材の初めに位置づけた「鑑賞」では、対話が生まれるような問いを示しました。



4 ページの表現中心の題材の場合



鑑賞

題材の初めに、表現につながる鑑賞作品を掲載しました。対話が生まれるように、鑑賞が深まる問いを示しました。

表現

発想 構想

作品の発想を広げ、構想を練るための手立てを示しました。

表現

みんなの 工夫

中学生の制作の過程を、段階を追って詳しく示しました。

鑑賞

題材の最後に、鑑賞を位置づけました。表現活動を行った後に、鑑賞することで、より理解が深まります。



P.70～73「地域の魅力を伝える」

2

発想や構想の力を育てる

— 全ての題材について、発想や構想の手立てを示しました。

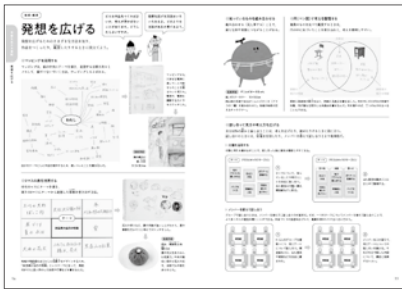
発想を広げ、構想を練るための具体的な手立てを示しました

表現

発想 構想

全ての題材に、生徒たちが発想を広げ、構想を練るための、具体的な手立てを示しました。

例えば、地域の魅力を伝えるデザインを考える題材では、レーダーチャートやマッピングなどで、既存のデザインについて分析したり、地域の特色を考えたりする方法を紹介しています。



P.76~77「発想を広げる」

巻末の「学習を支える資料」では、発想を広げる具体的な方法を紹介しています。



P.71「地域の魅力を伝える」

生徒の制作過程をもっと詳しく

表現

みんなの 工夫

4ページの表現中心の題材では、「みんなの工夫」と題し、2名の生徒の制作過程を詳しく紹介しています。実際の中学生在が、どのように発想・構想し、試行錯誤しながら作品をつくりあげていったのかを知ることで、生徒が自分の表現に生かしていくことができます。

地域の魅力を伝えるデザインを考える題材では、「地域の名産を使ったお土産のパッケージを考えよう」という授業を取材し、2名の生徒の制作過程を紹介しています。地域の魅力や対象者を考えながらデザインしようとする中学生の姿を見ることで、「自分だったら、どういうお土産をデザインするか」と、主体的に考えさせることができます。

●「みんなの工夫」が紹介されている題材

- ・「風景に思いを重ねて」(P.8)
- ・「今の自分、これからの自分」(P.46)
- ・「メッセージを伝える」(P.58)
- ・「地域の魅力を伝える」(P.72)



P.72「地域の魅力を伝える」

3

実感的に理解し、深い学びへ

—— 生徒の実感的な理解を深める工夫を、随所に施しました。

書き込みをして鑑賞を深める

「最後の晚餐」を鑑賞する題材では、トレーシングペーパーを綴じ込み、書き込みができるようにしました。一点透視図法などの作者の表現の工夫を、より実感的に理解でき、学びを深めていくことができます。



「最後の晚餐」の図版の上にトレーシングペーパーを綴じ込みました。線を引いて一点透視図法を確認するなど、トレーシングペーパーを活用して、鑑賞を深めることをねらいとしています。

P.10～13「レオナルドとその時代」

より本物に近い感覚が味わえる

鑑賞図版は、より本物に近い感覚で見ることができるよう、図版の見せ方や紙質に工夫を凝らしました。



教科書の中の「二次元コード (QRコード)」を使って、鑑賞をもっと深める

音声ガイド

以下の鑑賞図版について、音声ガイドを聞くことができます。作者や作品の背景など、鑑賞をより深める音声ガイドです。

- ・「最後の晚餐」(P.13)
- ・「神奈川沖浪裏」(P.25～26)
- ・「星月夜」(P.27～28)
- ・「ゲルニカ」(P.49～52)

<360度動画>

立体の生徒作品については、いろいろな角度から鑑賞できる動画を見ることができます。

P.36～37「絵巻物と漫画の表現」

「鳥獣人物戯画」を鑑賞する題材では、和紙のような風合いのある紙に実物大で印刷し、本物を見ているような感覚を味わうことができます。

教科書の特徴

編集上の留意点	
教育基本法・学校教育法との対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法, 学校教育法の理念を踏まえ, 美術の学習を通して幅広い知識と教養を身につけ, さらに, 「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など, 生きる力を支える能力を養えるよう配慮しました。
学習指導要領との対応	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の目標および内容をもれなく指導できるよう, 題材を選定・作成しました。 各題材の目標を明確にし, 表現や鑑賞の活動を通して「発想や構想に関する資質・能力」, 「技能に関する資質・能力」, 「鑑賞に関する資質・能力」を着実に身につけられるよう, 全体を通して系統的に配列しました。 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて, 題材の構成を工夫しました。
題材の配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> 「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」という分野ごとに構成し, 題材の内容に応じて「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と明記することで, 生徒が学習の内容をイメージしやすいよう配慮しました。 3学期制, 2学期制どちらにも対応するよう, 題材数, 領域のバランスを工夫しました。 巻末に, 材料と用具や〔共通事項〕に関わる資料をまとめた「学習を支える資料」を設け, 生徒が必要に応じて活用できるようにしました。
掲載作品の選定	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階や, 生徒の学習意欲を喚起することを考慮し, 作品を選定しました。 掲載作品については, 地域や時代, 性別に偏りが出ないように配慮し, また, 生徒の主体的・対話的な学びが生まれるような作品を選定しました。 多くの生徒作品を掲載し, 特に発想・構想のしかたに着目して選定しました。
主体的・対話的で深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の最初に鑑賞図版を掲載し, 生徒が主体的に作品を鑑賞し, かつ対話が生まれるような問いを示しました。 各題材の学びの流れを明確にし, 生徒が主体的に学習に取り組めるようにしました。 生徒の制作過程を詳しく示すことで, 「自分ならどう作品をつくりたいか」と主体的に考えられるよう, 工夫しました。 生徒が主体的に表現活動を行えるよう, 巻末資料を充実させ, 材料と用具, 〔共通事項〕に関わる内容を詳しく示しました。
道徳との関連	<ul style="list-style-type: none"> 特に道徳と関連する題材のページの左下には, 「道徳科とのつながり」というマークを示し, 生徒が道徳との関連を意識して学べるよう, 工夫しました。 東日本大震災などの自然災害の後につくられた美術作品や取り組みを随所で取り上げ, 困難を乗り越え, よりよく生きようとする心を育めるように配慮しました。 さまざまな国や地域の作品や, 作家の個性を生かした作品を掲載することで, 多様な価値観を認め, 相互理解の心を育めるよう配慮しました。
他教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 特に他教科と関連する題材には, 「○○科とのつながり」というコラムを設け, 他教科での学びを意識しながら, 表現や鑑賞の活動が行えるように配慮しました。
伝統・文化の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> 47都道府県すべての伝統工芸を紹介したり, 題材で適宜, 伝統工芸を取り上げたりするなど, 日本の伝統・文化への理解が深まるよう配慮しました。
安全指導への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 巻末の「学習を支える資料」では, 金属加工の際の注意事項を, 注意喚起のマークとともにわかりやすく示しました。
知的財産権や肖像権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画を撮影する際は, 著作権や肖像権に十分配慮し, ルールを守って使用することを, 注意喚起のマークとともに示しました。
特別支援教育への配慮	<p>教科書のユニバーサルデザイン, カラーユニバーサルデザイン(色覚特性)と, 学習上支援が必要な生徒のために, 特に以下の点に配慮しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の全てのページについて, 専門家の校閲を受けました。 図版と図版の間を空けたり, 罫線を引いたりして, 境界を明確に区別できるようにしました。 全学年を通して, 文字がやや小さくなる場合は, 読みやすさを強調してつくられたUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しました。
製本・印刷など	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞図版や文字が鮮明に印刷できる, 発色のよいコート紙を使用しています。 環境への負荷が少ない, 用紙・植物油インキを用いています。 製本は堅牢で, 生徒がページを開きやすいよう綴じ方にも工夫をしています。 鑑賞活動がより深まるように, 絵巻物を鑑賞する題材では, 和紙の質感に近い紙に印刷をしています。

2. 対照表

[第2・3学年]

図書の構成・内容	学習指導要領の内容			該当箇所	
	A 表現	B 鑑賞	[共通事項]		
うつくしい!		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.2-4	
絵や彫刻など	風景に思いを重ねて	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.6-9
	レオナルドとその時代		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.10-15
	空想の世界へようこそ	(1) ア (ア) (2) ア (ア)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.16-17
	想像の生物をつくる	(1) ア (ア) (2) ア (ア)	(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.18-19
	あれ?どうなっているの	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.20-21
	墨で描く楽しさ	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.22-23
	北斎からゴッホへ		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.24-31
	形と色の挑戦	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.32-33
	環境とともに生きる彫刻	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.34-35
	絵巻物と漫画の表現		(1) ア (ア) イ (イ)	(1) アイ	P.36-39
	躍動感を捉える	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.40-41
	思い出を形に	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.42-43
	今の自分, これからの自分	(1) ア (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.44-47
	ゲルニカ, 明日への願い		(1) ア (ア)	(1) アイ	P.48-55
デザインや工芸	メッセージを伝える	(1) イ (イ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.56-59
	わかりやすく情報を伝える	(1) イ (イ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.60-61
	みんなのためのデザイン	(1) イ (ウ) (2) ア (ア)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.62-63
	季節感のある暮らしを楽しむ	(1) イ (ア) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.64-65
	あかりがつくる空間	(1) イ (ウ) (2) ア (ア)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.66-67
	さまざまな椅子のデザイン		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.68-69
	地域の魅力を伝える	(1) イ (イ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.70-73
	心安らぐ場をつくる		(1) ア (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.74-75
	学習を支える資料	発想を広げる	(1) ア (ア) イ (ア) (イ) (ウ)	(1) ア (ア) (イ)	(1) アイ
写真や映像を撮影する		(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.78-79
映像で広がる世界		(2) ア (ア)	(1) ア (ア) (イ)	(1) アイ	P.80-81
金属でつくる		(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア)	(1) アイ	P.82
石でつくる		(2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.83
材料の可能性		(2) ア (ア)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア)	(1) アイ	P.84-85
色を組み合わせる		(1) ア (ア) イ (ア) (イ) (ウ) (2) ア (ア) (イ)	(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.86-87
日本の伝統色			(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.88-89
海を越えた文化交流			(1) ア (ア) (イ) イ (イ)	(1) アイ	P.90-93
美術史年表			(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.94-96
日本の伝統工芸			(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.97-99
日本の世界文化遺産			(1) ア (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.100-101
地域と美術とのつながり			(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.102
美術の力			(1) ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	(1) アイ	P.103
うつくしい!		(1) ア (ア) イ (ア)	(1) アイ	P.104-105	